

平成20年度 上越教育大学 特色GPシンポジウム

「教員養成大学に於ける「質保証」とは」—大学と地域の「協働」による教員養成—

日時 平成21年2月27日（金）13：00～16：50

会場 ホテルセンチュリーイカヤ

総合司会 阿部 靖子（上越教育大学 教授）

【開会の挨拶】 渡邊 隆（上越教育大学長）

渡邊でございます。一言、会を始めるに先立ちましてご挨拶申し上げたいと思います。実はこの特色GPは私学長として思いのあるGPでございます。実は6年間学長を務めたんですが、今から5年ちょっと前に大学が法人化されました。法人化されると同時に文部科学省からのお金の配分について変わってまいりました。いわゆるグッドプラクティス方式（GP）になったわけです。要するにいろいろなものを競争的な環境の中でそれぞれの大学が頑張っているいろいろなプロジェクトをやって、その中でいいものについてお金を出しませうという形を取り始めたんです。

私たちの大学は必死でした。確か1回目もだめで、2回目、3回目にこのGPが通って、今年4年目を迎えているんです。したがってこの上越教育大学の特色GPというのは私たちの新たな法人化で出発した大学の一つのスタートの勲章だったわけです。私はとてもうれしく思っています。その後はいろいろとGPをとるコツも覚えたのですが、この一番最初のエースに何を送ったかという、上越教育大学の最も特色的である、教育の現場に対して大学が一致してそちらに向かっていき教育の現場の中から教育をとるという方式で、教育実習をGPの中に取り組み方法をとることをやりました。

それをやった時に教育実習だけではなくて、今日皆さんのプリントの中にあります教職キャリアという教育の観点を入れることによって実践的な指導力の育成というテーマでこのGPをとらせていただきました。

その中で私たちが今まで30年の歴史の中で積み上げてきた現場サイドとの教育実習を中心とした、現場の実践的な課題を受け継いできているのです。

今回は特に質保証というテーマでございますが、この

質保証のテーマも私たちは非常に敏感に感じております。教員免許は誰が出すかという、こ



れは県の教育委員会が出す。教育委員会は何を基に出すかという、大学が単位認定をしているから出すんです。すなわち大学でのカリキュラムをとったからといって推薦して出す。ということは教員の資質の一番の根源は私たちの大学が作っているカリキュラムに依存しているわけです。それでやはり質保証で一番の責任を担わなければいけないのは大学なのだと思っております。

今日は山極先生に基調講演をいただいてこれから半日でございますが、熱心な討論を進めていただいて、私たちが教員を作っていくということ、また質の段階からやっていくということで、熱心な討論を期待しております。始まるにあたりまして私の挨拶に代えさせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。